

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	地誌学（Regional Geography）		
ナンバリングコード	E21515	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 教職科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2 年 / 後期
必修・選択区分	選択・教職 教職関係科目（必修）: 中学校教諭一種免許状（社会） ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	EK00551	クラス名	-
担当教員名	土居 晴洋		
履修上の注意、履修条件	本講義では主として中国、インド、日本を取り上げるが、新聞・テレビ等で得られるこれらの国々に関する報道を日常的に把握する努力をして下さい。 正当な理由のない、遅刻・欠席・途中退席は認めません。また、座席指定は行いませんが、適切な間隔を空けて着席するとともに、授業に集中し、ディスカッション等の活動への積極的な参加を求めます。 なお、本授業科目は、中学校教諭一種免許状（社会）取得のための必修科目である。		
教科書	使用しない。		
参考文献及び指定図書	適宜紹介する。		
関連科目	地理学概論A, 地理学概論B		

○基本情報		
授業の目的	自らの出身地や郷里などを他の地域の人に正しく理解してもらいたければ、自らが他の地域をよりよく理解しようとする姿勢を持たなければならない。地誌学とは地域の特質を理解し、その原因や背景を知ることである。しかし、それは単に、どこに何があるといった断片的知識を集積することではない。地誌学を学ぶことは、地域の特質やその原因などを理解することを通して、そこに生きる人々や社会をよりよく理解することでもある。このことは、本学のディプロマ・ポリシーに謳う「自然や文化・伝統など幅広い視野」を持ち、「時代の変化を捉える」力を養うことに繋がる。	
授業の概要	本講義の第3回までは、本学が所在する大分市や隣接する別府市を取り上げるなどして、地誌学とはどのような学問なのか、自然環境がどのように地域の特質を形成することになるのかを理解する。その後、インドと中国を取り上げる。インドと中国は、ともに人口大国であるが、そればかりではなく、今後の世界情勢の変化において鍵を握るとみられる存在でもある。両国をごくわずかの用語でしか認識していない人も多いが、自然環境やグローバルなスタンス、歩んできた道に基づき、それぞれ独特の特徴を有する。インド・中国を日本と比較しながら地誌学的知識や方法論を身に付けることは、近い将来、直接的・間接的に日常生活や仕事の場で共に生きていくことになる世界各国の人々の行動様式やメンタリティを理解することにもつながる。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	地域に関するニュース・話題に関心を持つことができる。		10点	10点
【知識・理解】	対象とする国や地域に関する基本的な知識を理解することができる。	20点	5点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な地図や統計資料の読解と考察を行うことができる。	20点	5点	5点
【思考・判断・創造】	地域の現状や変化の背景や要因を考察することができる。	10点	5点	5点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
対面・オンラインの開講形態に関わらず、双方向授業を行うために、あらかじめ指定したページの教科書の予習が行われていることを前提にします。また、授業においては、教員側から受講学生に対する質問への回答や、逆に学生側から教員側への疑問や質問が出されるか否か、ディスカッション等の活動への参加状況も評価の対象とします。 ワークシートの末尾に、授業で理解したこと、疑問・質問を記入する欄を設けますので、授業において理解できなかったポイント等を記入して下さい。ワークシート内の課題の理解状況を把握したうえで、記入された質問を加えて、次回授業において補足説明を行います。

○その他
予習を行う際に、地図や写真、図表等から何が読み取れるかをよく考えて下さい。授業においては、理解できなかったことを積極的に質問して下さい。授業後はワークシートの課題や解説を加えた教科書の図表や文章を中心に復習を行い、疑問等は提出前にワークシートに書き込んで下さい。 授業において使用したワークシートは授業後にjpegまたはpdf形式でユニパ上に提出して下さい。授業で使用したワークシートは手元に残りますので、授業後の復習や期末試験への準備として活用して下さい。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	地誌学（Regional Geography） 土居 晴洋	授業コード	EK00551
学修内容				
1. 地誌学とは何か 地理学の歴史は人類の未知なる地域への探索の歴史でもある。世界史的に有名な探検家による冒険的活動や軍事的要請などを含めて、人は外の地域を知りたいと思い、どこに何があり、どのような特質があるのかを理解しようとした。それらによって得られた地域に関する情報を蓄積することで、地域ごとに特徴があることや地域が異なっても共通する特徴があることを明らかにしてきた。地理学の歴史とも絡めて、地誌学とは何かについて考えていく。				
予習	中学校「社会科(地理的分野)」, 高校「地理A・B」でどのようなことを学んだかを思い出す。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
2. 大分市と別府市, それぞれの個性(別府市の場合) 本学の学生にとって身近な地域である, 大分市と別府市を取り上げ, 地誌学の視点で地域を見ることの楽しさを感じたい。両市は境界を接し, 通勤・通学などの日常生活や経済活動といった側面で, 一体的な都市圏を形成しているといっても過言ではない。しかし, 両市は明らかに異なる特徴を持ち, 私たちの両市に対するイメージも異なる。なぜそのように両市のイメージや特徴, つまり個性が異なるのかを自然条件や歴史的背景, 両市の外部にある条件などから考察していく。今回は別府市を取り上げて考察する。				
予習	別府市はどのような場所なのかを自らの経験をもとに整理する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
3. 大分市と別府市, それぞれの個性(大分市の場合) 前回に引き続き, 身近な地域の例として, 大分市を取り上げる。別府市の個性が, 自然条件やそれを踏まえた歴史的経緯, 日本の景気やライフスタイルの変化, 関西地方など他地域とのつながりにおいて理解されたように, 大分市の場合も同様の手続きを経て, その個性を把握していきたい。なお, 第14回に向けて, 身近な地域を見る視点や調査方法を説明する。				
予習	本学が所在する大分市がどのような場所なのかを自らの経験をもとに整理する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
4. インドの国土と自然 インドは日本から遠いこともあり, ヒンズー教やカレーなどの固定的イメージが強調され, 日本においてはそれら以外の実態が十分に理解されているとはいえない。しかし, インドは今や世界第1位の人口大国であり, 近年は世界の政治経済において重要性が急速に増している。インドを理解する第一歩として, 地球上の位置や国土の広さや地域的多様性を気候や地形などの自然的要素を基盤として理解する。				
予習	事前配布資料に眼を通し, インドの国土と自然の概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
5. インドの歴史とカースト ヒンズー教やカースト制度は, 日本人がインドにいだくイメージの代表格である。しかし, ヒンズー教やカースト制度は, インドの歴史そのものといっているほどの長い歴史を有し, なおかつ現代の多くのインドに生きる人々にとって, その生き方やアイデンティティを規定するものでもある。インドが持つ宗教的な側面と言語的特質の考察を通じて, インドを含む南アジアの歴史的過程と地域的特質を理解する。				
予習	事前配布資料に眼を通し, インドの歴史的経過の概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
6. カースト社会の特質 カースト制度はその差別性から20世紀半ばのインド独立以降, 憲法上は否定されている。しかし, 「カースト」という概念は, 現代社会においても, 多くの人々の生きる拠り所, あるいはアイデンティティの基礎としての重要な意味を有している。ヒンズー教の教えと絡めながら, カースト制度がなぜ生まれ, 地域社会の中でどのように存在し, 社会の中でどのような意味を持ち続けてきたのかについて考える。また, 現代インド社会におけるカーストを巡る様々な変化についても言及する。				
予習	事前配布資料に眼を通し, インドのカースト社会について, その概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
7. インドの農村・農業の近代化 多様で厳しい自然環境を持つインドでは, 各地でその自然環境を基盤として農業が営まれてきた。しかし, 前時で学んだ社会的特質やイギリスによる植民地経営にも影響され, 必ずしも豊かな農業生産が達成されていたわけではない。インドの経済発展は都市部ばかりでなく, 近年は農村地域も確実に成長し豊かになりつつあるといわれる。そのような農村や農業の発展が如何になされたのかを理解する。				
予習	事前配布資料に眼を通し, インドの農村地域の近年の変容について, その概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
8. インドの経済発展とIT産業 中国の影に隠れて見えにくいのが, 現代インドの経済発展は著しく, それを牽引するのがIT産業である。インドでIT産業を中心として経済発展が進展しつつある理由や背景を理解するには, グローバルな視点とローカルな視点の両者が必要である。これらの視点から現代インドの製造業やIT産業の地域的特質を理解するとともに, 近い将来の世界経済におけるインドの果たす役割を展望する。				
予習	事前配布資料に眼を通し, インドの経済発展の状況について, その概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	

○授業計画	科目名 担当教員	地誌学（Regional Geography） 土居 晴洋	授業コード	EK00551
学修内容				
9. 中国の国土と自然 世界最大の人口大国であるとともに, 21世紀の世界の政治経済を動かす鍵を握る中国について, 4時間をかけて学習する。その第1回では, 地球の中における中国の絶対的・相対的位置を確認し, それが中国を理解するうえでどのような意味を持つのかを理解する。また, 広大な国土を持つ中国における地域による気候や地形環境の違いを学ぶことを通して, 中国を空間的な広がりとして理解する視点を身に付ける。				
予習	事前配布資料に眼を通し, 中国の国土と自然の概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
10. 中国の政治と経済発展 地域を空間的広がりとして捉えることとともに, 時間的推移の中で地域を捉えることも重要である。中国はそのような視点を持つことが如何に大事であるかを理解させてくれる存在である。清朝末期から中華民国, 中華人民共和国の成立から現代に至る様々な出来事が, 政治的経済的大国へ変貌しつつある現代中国を理解する鍵を提供してくれる。近年のめざましい経済成長の背景に, 政治権力の推移と連動する改革開放政策があるが, そこには中国国内の地域的特質が反映されていたことを理解する。				
予習	事前配布資料に眼を通し, 中国の経済発展と政治的変化の関係について, その概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
11. 中国の産業の動向 近年の中国の経済発展を支えてきた製造業を中心とする産業に注目する。かつて世界第2位のGDPを誇っていた日本と発展途上国として経済成長を追い求めていた中国の立場が入れ替わった現在において, そのような変化の原動力となった製造業などの産業の発展の経路や地域的特質を理解することは, これからの日中関係や国際経済を予測するうえで有益である。				
予習	事前配布資料に眼を通し, 中国の産業の地域的特質について, その概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
12. 都市社会の特質 近代的なビル群や工場などの製造業の現場など, ニュースなどを通して見る中国社会は, 画面に映る文字が漢字であることもあって, 日本とさして違いがないように感じてしまう。しかし, 前時までで見てきた中国の変化や現状を支える社会の特質は日本とは大きく異なる。20世紀半ば以降の人口動態や多民族社会であること, 地域コミュニティのあり方などを通して, 中国社会の特質と近年の変化の諸相を理解する。そのことは国際化が進む現代世界や日本のあり方を考える基礎ともなる。				
予習	事前配布資料に眼を通し, 中国都市地域における住宅やコミュニティの特質について, その概要を把握する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
13. 中国内陸地域の発展と課題 経済発展が著しく, 情報も多く伝わってくる沿海地域と比べると, そこから離れた内陸地域は広大な広がり有するにも関わらず, 経済発展が遅れ, 伝わってくる情報も相対的に少なく, 我々の認識の乏しい空間といえる。中国内陸地域はなぜ経済発展が遅れているのかを地理学的な視点で考えるとともに, 国家的政策として, いくども経済発展政策が実施されてきたことを知り, 発展の制約条件にも触れつつ, 内陸地域の特質を活かして進む経済発展を理解する。				
予習	事前配布資料に眼を通し, 中国内陸地域における自然環境の特徴や経済発展の状況について, その概要を		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
14. 身近な地域の地誌学的考察 本講義で学んだ地誌学における地域の見方を実践するために, 受講生各自の身近な地域について, 事前に調べ, できれば現地に行き, それらの成果を整理することで, その地域の特質, 個性を探る活動を行う。授業時には, その結果を発表し, 質疑応答を行う。多くの受講生は自らの出身地を取り上げるものと思われるが, 「出身地だから知っている」という思い込みを排し, 客観的な視点で考えるようにして欲しい。				
予習	身近な地域を選定し, 文献調査や現地調査を行ったうえで, 報告書(レポート)を作成する。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
15. 地誌学で捉える現代社会 本講義の締め括りとして, 現代社会を地誌学として捉えることの意義と有効性について考える。本講義では, 大分市と別府市, インド, 中国, 最後に受講生自身の探究活動の実践を通して, 地誌学における地域の見方やそれを捉える方法論について習得を図ってきた。国内外で起きている様々な出来事を事例として, それら出来事を地誌学の視点でどのように読み解いていくかを理解する。				
予習	第1回から第14回までの授業内容を振り返る。		2時間	
復習	講義内容を復習するとともに、ワークシートを完成させて提出する。		2時間	
16. 期末試験 期末試験				
予習				
復習				